

被災地の母の保育園助けたい

宮城の若者 武者修業

佐賀市

東日本大震災の被災地で保育園を運営する母親を支えたいと、宮城県の若者が佐賀市の「おへそ保育園」で約1カ月間の「武者修行」に取り組んだ。保育園経営のノウハウを学び、復興へ歩み出した故郷で「将来の日本を担う人材を育てたい」と夢を描く。

訪れていたのは宮城県登米市配したの母得恵さん(54)の市の境武士さん(24)。震災当時、兵庫県の食品会社に勤務していた境さんが真っ先に心

おへそ保育園で経営学ぶ



子どもたちに絵本を読み聞かせする境武士さん(佐賀市白山の七賢人の里「おへそ保育園」)

発から、けんかが絶えなかつた母子だったが、やっと3日後につながった電話に「家族の大切さを実感した」

い帰省。幸い、実家も保育園にも被害はなかったが、津波被害が激しかった隣の南三陸町から親類が身を寄せてい

た。父親を亡くしながらも、「お母さんを守るために強くなる」とじっと余震に耐える子どもたちの姿に胸を打たれた。それが「母親の保育園を継ぎたい」と考えるきっかけになったという。

3月末に会社を辞め、修業先に選んだのは兄の友人吉村直記さん(26)が園長を務める保育園。おむつ交換など保育の基礎だけでなく、空手や世界の文化に触れる独自のカリキュラムを学び、6月29日に帰郷した。

保育園がある登米市には仮設住宅が建設され、南三陸町からの転入家庭が増え、保育士が足りない状態という。「他の保育士の分まで頑張って、子どもたちがあこがれる大人になりたい」と意気込む。

(尼寺宏輔)